

地域のリサイクル情報誌

『ヴェーナス通信』



商標登録第 4882482 号

Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第88号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
 東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
 TEL : 042 - 395 - 9788
 FAX : 042 - 395 - 9787



久しぶりに、好天に恵まれた満開の桜と共に、新しい年度がスタートしました。組合が資源物の戸別収集に携わるようになって10年、小平市の新リサイクルセンターの業務委託が始まって5年が経過し、また新たな気持ちで安全・安心な完全施行に努めて参りたいと考えております。

昨年12月に当組合で回収に使用する車両109台に取付を完了したAIドライブレコーダーの効果は確実に出ております。ヒヤリハットの手前のリスク運転を70%超減らすことが出来、軽微な事故報告もほとんどなくなりました。各運転手には、運転のスコアが100点満点で表示されますので、皆模範ドライバーとなって安全運転を励行しているところです。

さて、資源物の市況に関しましては、金属類、古布類は、発生が良くないこともあって価格が高止まっています。一方、古紙については、ペーパーレス化の影響もあり、発生は年々減っておりますが、金属や古布と同じ状況にはなっており、価格も需要も低迷したままとなっています。発生が減る、価格も低迷ということで、

資源回収業者にとっては、燃料費や人件費が高騰していく中、売り上げの減少につながり、大変厳しい状況が続いております。特に集団回収については、古紙を始めとする資源物の売り上げと業者助成金で回収経費を賄っておりますので、発生量の少ない団体の回収継続が困難な状況となってきております。発生量が減っているということは、団体の皆様の報奨金も減少している状況にあると思っておりますが、資源回収業者から、回収の効率化のための回収回数の変更、曜日や時間の変更などの依頼があった際には、ご相談に乗って頂けると幸いに存じます。

各自治体におかれましては、希薄化する地域コミュニティを維持、醸成するためにも、行政回収を補完する意味でも、集団資源回収は重要なシステムでありますので、資源回収業者への更なるご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

私たち資源回収業者も、何とか古紙の回収量を増やしていけるようにさらなる研究、努力を重ねて参りたいと考えております。可燃ごみに混入している雑がみ類の更なる掘り起こしのための啓発活動に取り組んでいくこと、また、製紙原料としてリサイクルが難しいとされている難処理古紙、いわゆる禁忌品類の活用の可能性について研究を進めていきます。

なかなかハードルは高い課題ではありますが、この地域の資源化率は、都内でも高く、リサイクル意識の高い市民の皆様と行政と連携しながら取り組んでいきたいと思っております。(吉浦)

●ヴェーナス通信 88号 目次●

- P 1…『新年度を迎えて』 代表理事 吉浦 高志
- P 2…『プラスチックと紙』 環境ジャーナリスト 栗岡 理子様
- P 4…リサイクル掲示板『古紙リサイクルの課題と現状～市民ごみ大学セミナー講演より』
- P 6…組合関連施設見学会、東リ協会リサイクルフォーラム・陽春のつどい
- P 7…運転者安全講習会、東多摩再資協青年部総会、りさいくるきゃらばん、今後のイベント案内
- P 8…当組合吉浦亜矢子氏が東資協青年部長に、行事・行動、編集後記

直言拝聴

『プラスチックと紙』

環境ジャーナリスト
環境カウンセラー(市民部門)

栗岡 理子様



身の回りにプラスチックが溢れ始めてから六〇年。今やプラスチックなしの生活は考えられないほど、回りはプラスチックだらけです。当初は、軽くて長持ち、その上、木を伐る必要もないなどの理由から「紙よりエコ」だと位置づけられていました。

しかし近年、プラスチックには大きな問題があることがわかってきました。そのため、プラスチックから紙へという「紙化」の流れ

が起き、禁忌品が増える原因にもなっています。

便利さの裏に潜んでいた落とし穴

私たちがプラスチックの便利さにハマり、すっかり虜(とりこ)になったのは一九六〇年代です。まもなく「海鳥がプラスチックを食べているらしい」「クジラのお腹から何十枚ものレジ袋が出てきた」などのマイナス情報が伝わってきました。

そうこうするうちに、深刻なダイオキシン汚染が報告され始めました。私が始めてダイオキシンという言葉を知ったのは一九八四年です。当時参加していた市民団体の機関誌に、「プラスチックを燃やすとダイオキシンという猛毒が出るそうだ」と書かれていたのです。その後ダイオキシンに関する研究が進み、高温で燃やせば塩素系のプラスチックでもダイオキシンの発生が著しく減ることなどがわかり、二〇〇〇年には「ダイオキシン類対策特別措置法」が施行されました。

科学技術で諸問題は解決できるという自信が産業界を中心に醸成されたのはこれがきっかけの一つだったように思います。しかしそれは勘違いでした。科学技術を

過信し対症療法に明け暮れた結果のツケが、気候変動やプラスチック汚染として露呈してきたのです。それでもまだ私たちはプラスチックの大量消費をやめることができず、循環させればよいとばかりに二〇二二年四月、プラスチック資源循環法を施行しました。

リサイクルに不向きで、危険なプラスチック

同法で容器包装プラとそれ以外のプラ製品の一括回収が促されましたが、プラスチックは紙のようにはうまく材料リサイクルできません。一五三種類ある※といわれるほど種類の多いプラスチックですが、生産量の約六割、廃プラの約七割を占めるのはポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンの三種類です(プラスチック循環利用協会資料)。

資源循環には回収とリサイクルが必要ですが、品質の良い再生材料を作るためには、同じ種類のものだけを集めてリサイクルする必要があります。そのため、ペットボトル工場を除く多くのリサイクル工場では、この多量に使われる三種類のプラスチックだけを選別し、それぞれ破砕・洗浄後、乾燥させてからペレット(粒状のプラ)

に加工します。この三種類が使われていても、他の素材と一体化していたり複層になっていたりするのはリサイクルできず、残渣として他の種類のプラスチックと一緒に固形燃料などになります。そのため、リサイクル工場へ行った容器包装プラのうち、リサイクルされる量は約半分です。

しかも、プラスチックに使われる添加剤は二五〇種類あります※。その組み合わせは多岐にわたり、リサイクル後も大半の添加剤はそのまま製品に残ります。

また昨年、リサイクル工場から処理量の最大十三%ものプラスチックがマイクロプラスチック(微小プラ)となり、洗浄水に混じり放出されていることがイギリスの研究でわかりました。リサイクル工場もマイクロプラの一大発生源だったのです。流出を止めるため、細かい目のフィルターを付けましたが、それでもまだ六%のマイクロプラがフィルターの目をくぐり抜け、洗浄水と一緒に流れ出てしまします。しかも、リサイクル工場の大気はマイクロプラで汚染されています。

さらに、リサイクルそのものにも課題があります。紙は水にさらすと繊維状にほぐれるため、古紙

は「脱墨」によりインクの大半を取り除くことができますが、一般的なプラスチックリサイクル工場ではインクを除去することはできません。そのため、きれいな再生品を作るには、プラスチックを同じ種類に分けるだけでなく、色別にも分ける必要があります。色を分けない場合は色が混じり合い、黒ずんだ再生品になるため、擬木やパレット（輸送や物流に使う荷台）など色を気にせずに済む製品を作るようになります。

このように、プラスチックのリサイクルのしにくさは紙の比ではなく、マイクロプラがもたらす危険性は近年ますます強く警告されています。私たちは食品や水を通してマイクロプラを体内に取り込むだけでなく、大気に浮遊するマイクロプラを呼吸によって吸い込んでいます。

取り込んだプラスチックの一部は体内に残り、内臓などに蓄積します。既に生きている人間の肺や心臓、血液、胎盤、母乳、精液からもプラスチックが見つかり、健康への悪影響も指摘されています。動物実験では、マイクロプラが母体から胎児へ移動することや、脳にも容易に侵入し行動に影響を与えることなども確認されました。

「紙化」で禁忌品が増大

プラスチック汚染が多くの人に知られるようになると、容器を紙にする紙化の流れが始まりました。しかし、プラスチックの代わりに使われる紙容器は、紙にプラスチックが貼り付けてあるものが大半で、古紙リサイクルの禁忌品です。

容器包装リサイクル法の下で二〇〇〇年から「紙製容器包装」の回収が始まりましたが、既に「雑がみ」を回収していた自治体が多かったため、紙製容器包装を回収する自治体はまだまだ多くありません。紙箱や包装紙などは雑がみとしても回収できるためです。現在、一五九二市町村のうち一四四市町村（二〇二二年度）が容器包装リサイクル協会（容リ協）ルートで紙製容器包装回収に取り組んでいます。それら自治体の多くは、容リ協に教えられた通り、紙箱や包装紙、紙コップ、ヨーグルトやカップ麺など「紙」の識別マーク（紙マーク）が付いているものを紙製容器包装として集めています。その場合、雑がみとは「新聞」「ダンボール」「紙パック」「雑誌」「紙製容器包装」以外のものを指すため、雑がみの量は減少します。

紙マークが付いていれば禁忌品も回収するため、紙製容器包装を

回収する自治体の資源を除く家庭ごみ量は、回収していない自治体に比べ少ないはずですが、実際はそう変わりません。例えば、「紙製容器包装」と「雑誌・雑がみ」をそれぞれ行政回収している神奈川県相模原市の家庭ごみ量は、市民一人一日当たり四九六gで、政令指定都市平均の四六六g/人・日を大きく上回っています。また、ごみの組成分析によると、十四%の資源化できる紙類がごみに混入し、捨てられています。せっかく自治体が回収品目を増やしても、市民はますます面倒がり、ごみとして捨ててしまっていることがうかがえます。紙製容器包装リサイクル推進協議会は、家庭から排出される紙製容器包装の約八割がごみとして捨てられていると推定しています。

相模原市で回収される年間約四千トンの紙製容器包装は、市内に数カ所ある委託先の選別施設で異物を取り除いた後、全量県外の落札業者に引き取られ、そこでまた製紙原料と固形燃料に選別されています。雑誌・雑がみも約四千トン回収されますが、それは全量市内の古紙業者に買い取られます。

もし、名古屋市のように紙製容

器包装と雑がみを一緒に回収したならば、市内の選別施設で古紙原料になるものとならないものに分けるようになります。紙製容器包装として遠方へ運ばれるのは禁忌品だけにすることができ、輸送に伴うCO2排出量は確実に減ります。

集団回収のなどを考えると、自治体による古紙一括回収のハードルは低くはありませんが、今後ますます禁忌品の紙容器の増加が予想されます。「紙マークはリサイクルできるという意味ではない」といくら市民に説明しても、理解を得るのが難しいことは既にこの二〇年でわかりました。

現在、多くの自治体で「プラスチック一括回収」を開始、あるいは開始準備中です。これまで「容器包装プラとそれ以外のものとの区別が難しい」「なぜ同じプラスチックなのに分けるのか」と感じていた消費者に、一括回収はとても好評です。

古紙も紙製容器包装と雑がみの一括回収の時代が来るのではないかと、と最近考えています。

※熊谷将吾、吉岡敏明、廃棄物質源循環学会誌、二五（二〇一四）

リサイクル掲示版

古紙回収業者の経費は、古紙回収量×古紙の売払い単価（集団回収の場合は+業者助成金）となっております。単価の上下はもちろんですが、古紙回収量が減ってしまうと回収経費が減ってしまうこととなります。資源回収システムを維持していくためには、回収量を減らさない、増やす努力が必要です。

④ 雑がみとその掘り起こしについて

可燃ごみの組成分析調査によると、概ね40%程度の紙類が混入しているという結果が出ています。これには、収集中に45%程度含まれている水分による誤差、リサイクル出来ない紙類も含まれていることなどから、実際にリサイクルできる紙類の混入は、可燃ごみのうちのおよそ5%程度、東京都内で最大12万トン程度と推計しました。但し、これをすべて掘り起こせると、回収量の17%程度増加が見込まれます。

雑がみとは、新聞、雑誌、段ボール、牛乳パック以外のリサイクル可能な紙類のことです。雑がみには、リサイクル出来ない異物や禁忌品の混入が多いので、しっかりと分別をして頂く必要があります。

⑤ 古紙の出し方と禁忌品

まず、古紙を出す際には、新聞、段ボール、雑誌・雑がみ、牛乳パックと品目別に分けて出して頂く必要があります。これは、品目ごとに再生用途が異なるからです。また、古紙・古着を同時に集めている地域だと、古紙の中に古着が混ざっていることもあります。もちろん、古着は古着でビニール袋に入れて分けて出して下さい。

そして、禁忌品ですが、禁忌品には絶対に混ぜないで頂きたいA類と、混入が好ましくないB類があります。B類は、感熱紙、ノンカーボン紙や圧着はがきなどがありますが、雑誌・雑がみへの混入は0.5%以内にするように品質基準が定められています。絶対に混ぜてはいけないA類は、そもそも紙ではない不織布、木片、布類、金属類などの他、洗剤や線香の箱などの臭いのきつい紙、ピザやケーキなどの食品残渣のついた紙、三大禁忌品と呼ばれる昇華転写紙（アイロンプリント紙）、感熱発泡紙（点字図書などの紙）、蠟引き段ボール（油をしみこませたような段ボール）があります。

また、紙のリサイクルマーク[㊟]があります。これは紙製の製品や複合素材でも紙の重量が多いものにつけられるマークで、実はリサイクル出来ない禁忌品にもこのマークが付けられている場合があります。紙については、マークだけで判断せず、禁忌品かどうかを確認して下さい。

また、紙のリサイクルマーク[㊟]があります。これは紙製の製品や複合素材でも紙の重量が多いものにつけられるマークで、実はリサイクル出来ない禁忌品にもこのマークが付けられている場合があります。紙については、マークだけで判断せず、禁忌品かどうかを確認して下さい。

製紙原料に適さない紙類！ 古紙を出す際には注意してください

A 類：古紙に混入することで重大な障害を生ずるもの				B 類：古紙に混入することは好ましくないもの			
カバンや靴などの包装  <small>(カバンの緩衝材)</small>	昇華転写紙  <small>(アイロンプリント紙)</small>	感熱発泡紙 <small>(点字コピー紙)</small>  <small>(点字図書)</small>	臭いのついた紙  <small>(石油や生油類の包装紙)</small>	印刷された紙  <small>(金庫の紙幣など)</small>	印刷に使用される紙  <small>(複製、鉛筆ノートなど)</small>	圧着はがき  <small>(公共料金の請求書)</small>	シール、粘着テープ  <small>(郵便封筒など)</small>
食品残渣のついた紙  <small>(ピザ、ケーキなどの食品を裏面に印刷した包装紙)</small>	ろう(蠟)紙(ワックス材段ボール)  <small>(輸入資材物・水添加品を入れる段ボール類)</small>		複合材  <small>(複層発泡緩衝材など)</small>	カーボン紙 <small>ノーカーボン紙</small>  <small>(電算機の伝票など)</small>	織物紙  <small>(レーヨン紙)</small>	印刷紙 <small>(バーコード紙)</small>  <small>(チケットなど)</small>	着色した厚紙類のケラレ紙  <small>(色の濃いもの)</small>
不織布  <small>(マスク、衛生手拭、包装紙など)</small>	臭い・油が付いた紙  <small>(紙おむつ、生理用品、ペット用トイレシート)</small>	合紙紙 <small>スローペーパー</small>  <small>(紙幣、銀行紙幣)</small>	石、ガラス、土等、金属工品、印刷機をかけた紙、布類、プラスチック類 	防水加工された紙  <small>(紙コップ、紙皿、紙製のラップ容器など)</small>	<small>右欄の「古紙に混入することは好ましくないもの」の中には、製紙原料などとして利用できないものも含まれているものがあります。そのため、地域の自治体や製紙回収業者に確認してください。</small>		

⑥ まとめ

古紙のリサイクルを維持していくためには、古紙の回収量を維持していく必要があります。このためにも、雑がみの掘り起こしが必要です。一方で、しっかりと品目ごとに分別して、禁忌品を混ぜないように市民の皆様へ広報活動、啓発活動を行ってまいります。今後の古紙回収減を考えると、禁忌品とされる紙類や使用済みの紙コップなどの紙製容器包装類といった難処理古紙の回収の研究を進めていくことも検討しています。

そして、最終的にリサイクルの輪を完成させるためには、再生紙商品を積極的に使って頂くことも大事です。リサイクルが出来ないティッシュやトイレットペーパーはもちろんですが、最近増えているビニールパックのティッシュではなく紙の箱に入ったボックスティッシュを選ぶとか、緩衝材をプラスチックではなく紙製のものを使うなどです。紙は回収から加工までリサイクルのシステムが完成していて、何度でもリサイクルが出来る優秀な素材です。素材としての紙を今一度見直して頂きたいと思っております。

リサイクル掲示板

「回収現場での課題と古紙リサイクルの現状」～市民ごみ大学セミナー講演より

去る2月24日、市民団体であるごみ環境ビジョン21様のご依頼を受け、市民ごみ大学セミナーにて表題の講演を行いました。環境・リサイクル問題では、古紙のリサイクルはある意味成熟しすぎて、話題のトレンドが廃プラスチックや太陽光パネルなどに移ってしまっているように感じます。そのような中で、紙のリサイクルがテーマということでしたが、当日は、多摩地域の廃棄物行政のアドバイザーの第一人者である明治大学の山谷修作教授とご一緒させて頂いたこともあって、多くの市民の皆様、行政関係者、業界関係者の皆様にご来場頂き、質疑応答では熱のこもった議論をすることが出来ました。今回のリサイクル掲示板では、当日の講演内容を抜粋して掲載したいと思います。



市民ごみ大学セミナーで講演する
当組合紺野専務理事

①資源物の戸別収集化によるメリット、デメリット

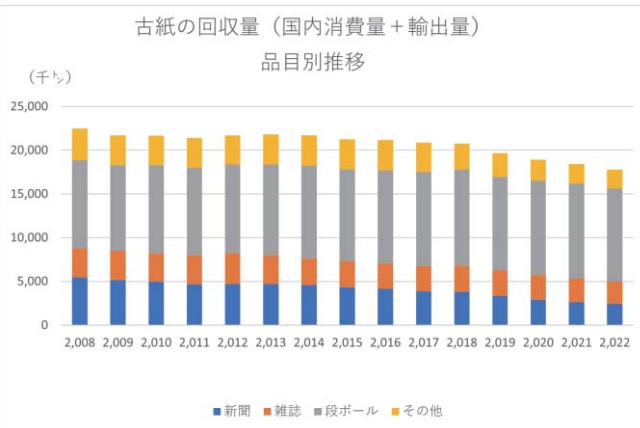
多摩地域では、30市町村のうち27自治体でごみの戸別収集が、うち25の自治体で資源物まで含めて戸別収集化が実施されています。有料袋に入れて出されているごみと違い、資源物（特に古紙・古着）では、様々な効果と共に問題も起きております。メリットとしては、戸別化により、古紙・古着の回収量が増えたこと、持ち取り業者が減ったことなどがあげられます。一方で、集団回収量が減少、新聞販売店や集団回収に出された古紙との誤回収によるトラブル、置き配の誤回収、生活道路での交通事故の増加などの問題が起きています。手間も余計にかかりますし、クレーム、トラブルも多くなる戸別収集化ですが、安全対策、品質管理をしっかりと行って取り組んでいることをまずはご紹介しました。

②紙・板紙の需要、古紙の市況について

国内メーカーの紙・板紙の生産量は、2023年前年比7%減となっています。新聞・雑誌の発行減、ペーパーレス化に伴い洋紙生産量が減少していることで、『紙』の生産が減っていますが、段ボールや化粧箱になる『板紙』の生産量も2022年までは通販の需要などもあって伸びていましたが、2023年は減少に転じました。通販も最近では緩衝材付封筒や茶袋に置き換えられていることも多く、通販需要も頭打ちとなっていることも原因と考えられます。また、東南アジア各国で新しい製紙マシンが続々と稼働しているなかで、国際競争が激しくなっており、日本からの原紙の輸出が落ち込んでいることも原因と考えられます。一方、原料となる古紙の輸出については、円安や紅海でフーシ派が海賊行為を行って欧米古紙が調達しづらい状況にあることなどから2023年は4年ぶりに増加しています。古紙の発生も減っているため、結果的に需給バランスは取れていることと、国内、輸出とも古紙価格については乱高下なく推移している状況です。

③古紙の発生減とその影響

古紙回収率は、行政回収が各地に広がり始めた2000年は57%程度でしたが、現在は80%という高水準を維持しています。古紙の利用率も2020年には目標だった65%を達成し、維持している状況です。2020年は、『紙』と古紙の配合率の高い『板紙』の生産量が逆転した年ですので、このことも反映しています。ただ、古紙回収量については、ピークだった2007年の2300万トンから落ち込み、2022年は1800万トン程になっています。やはり、新聞、雑誌の発行部数減、事業所等



でのペーパーレス化の影響が大きく、新聞古紙や上物古紙（白い紙）の減少幅が大きくなっています。雑誌・雑がみは、雑誌が減っているものの、雑がみ回収が増えているので微減、段ボール古紙は微増となっています。雑誌・雑がみは別々に計量しているわけではありませんが、組成を分析すると重量では減っているものの容積は減っていないため、回収や選別の手間はむしろ増えていると言えます。

組合関連施設見学会を開催

小平市リサイクルセンターでは、行政回収した古布・布団、缶（アルミ、スチール）を選別して出荷していますが、そのあとにどのような工程でリサイクルやリユースされていくのか、私を始め、新センター移行後に入社した社員は、知識不足などがありました。

この度四月二十七日に出荷先であるキムラセイ様及び永和鉄鋼様の工場を見学する企画をしていただき、理事二名を含む十三名で訪問してきました。



キムラセイの佐藤常務執行役員から構内での選別作業の説明を受ける

埼玉県加須市に本社工場のあるキムラセイ様ではコンベアで流れてきた古布などを手選別で分類し、リユースとして国内やマレーシアの店舗で販売していると説明



キムラセイの出荷前の古布のバール品の前で集合写真

をいただきました。第八六号のヴィーナス通信では今回ご案内いただいた佐藤常務の寄稿でリユースが五〇%以上とありましたが、その量を作業員の方々が目視で二百種類以上に分別していることには驚かされました。また季節により売れる売れない製品があるため保管する倉庫の確保や移動、材質によりリサイクルにする分別を手触りで行うこともあるという熟練の感覚など私には想像できない内容でした。

次に訪れた青梅工業団地にある永和鉄鋼様では、様々な家電や機械を含む金属くずを残渣を出さないうまで破碎し特殊選別により完全なリサイクルを行っていました。見学の中でノート型のパソコンを

手作業で分解しバッテリーを外し他社との協力で原料になるまで選別していく取り組みは、一〇〇%リサイクルをするという経営理念を感じます。

今回訪問させていただいた企業様はリサイクル・リユースに特化し持続可能な開発目標（SDGs）に準じた生業をされていると思えたことが有意義な見学会でした。そして私も少しでもその一端を担うことができるよう考えさせられました。

最後にこの見学会を企画していただいた理事や、見学を受け入れていただいた企業様に感謝を申し上げるとともに、今後も相互協力関係のもとこのような機会を実施できればと思います。

（小平センター 森屋）



永和鉄鋼の入り口看板前で集合写真

東リ協会リサイクルフォーラム・陽春のつどい

去る三月一九日（火）、東京ガーデンパレスにて、公益社団法人東京都リサイクル事業協会のリサイクルフォーラム・陽春のつどいが開催されました。

リサイクルフォーラムでは、環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課の松田尚之様が『リサイクル事業委託のあり方と専ら物の解釈について』をテーマに講演されました。資源物を含む一般廃棄物収集業務の適正な処理と事業の安定的な継続性に関する平成二六年十月の『一般廃棄物処理計画を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律の適正な運用の徹底について（通知）』や、専ら物の解釈に関して改めて再確認した令和五年二月の『専ら再生利用の目的となる廃棄物の取扱いについて（通知）』を中心に解説をして頂きました。



第二部の陽春のつどいは、コロナ禍では、四年ぶりに東リ協会の会員の皆様一堂に会して懇親を深めることが出来ました。

回収車両運転者安全講習会

去る三月一五日(金)、本年度二回目となる安全講習会を東村山市民センターにて開催しました。

冒頭の吉浦理事長の挨拶では、昨年一二月より運用を開始したAIDドライブレコーダーにより、リスク運転が大幅に減り、軽微なものも含めて事故報告もほとんどなく、運転者の皆様が安全運転に対する自覚を高めて取り組んでいることに感謝と労いの言葉を伝えました。

当日ご来賓として、東村山市環境資源循環部ごみ減量推進課より武田源太郎課長にお越し頂き、市の委託業務に関して責任をもつて



組合員 10 社およそ 100 名の運転手が参加して開催した安全講習会の様子

取り組んでいることに対して感謝の言葉を頂くとともに、引き続き市の看板を背負って作業をしていることに対しての自覚と、安全運転で取り組んで欲しいとお言葉を頂きました。また、当日ご欠席された東久留米市環境安全部ごみ対策課山口宏之課長からは、事前にメッセージを頂き、司会より読み上げさせて頂きました。

続いて、紺野専務理事より、安全講習会の趣旨説明と、『TEAM東多摩』の回収作業員として遵守すべき事項について、説明を行いました。

安全講習会では、今回導入したドライブレコーダーシステムの開発会社である株式会社GOより、スマートドライビング事業本部カスターサクセス宮石勇馬様にお越し頂き、『DRIVE CHART』をもとにした交通安全講習会と題して、このシステムに関する説明と、安全運転のための活用方法について講演をお願いしました。同じように車両を使用して業務を行っている業界と比較して、順調にリスク運転を減らしていつていくこと、運転者個人がドライブチャートにログインして、リスク運転動画や運転スコアを見ることが、自分の運転を振り返り、安全

運転意識の強化につながることを出来ることを説明頂きました。

最後の小畑副理事長の講評で、AIDドライブレコーダーは、皆様の運転を管理者に代わってAIが管理してくれるシステムですが、一番肝心なのは、運転者皆様の安全運転に対する意識を持続することであることを再確認し安全講習会は閉会となりました。

東多摩再資協青年部総会を開催

去る四月二二日(月)、組合本部会議室にて、第二二回東多摩再資協青年部総会を開催しました。来賓として、吉浦理事長、小畑副理事長にご臨席を頂きました。

水野青年部長からは、昨年の重大事故を受けて、安全対策により一層力を入れ、引き続き組合事業に全面的に協力をしていくことと、新たに当組合青年部より吉浦副部長が東資協青年部長に就任したことを受け、組合青年部としても、東資協青年部活動に参加し、全面的に支援を行っていくと挨拶をしました。

議案の審議では、令和五年度の活動報告、決算報告・監査報告、令和六年度の事業計画(案)、会計方針(案)のすべての議案が無事に可決承認され、総会は無事に終了しました。

小平市リサイクルきゅらばん

去る二月一三日、三月二二日と、小平市内にてリサイクルきゅらばんが開催されました。当組合では、おもちゃ、育児用品、文房具などの小物雑貨類と牛乳パックの回収を行い、お持ち込みいただいた市民の皆様が雑がみ整理袋と『ヴィーナス通信』古紙の分別に関するパンフレットやチラシの配布を行いました。

なお、牛乳パックについて、今後回収はしますが、トイレトペーパーとの交換は実施しないことになりましたのでご了承下さい。

各市イベント開催のお知らせ

- 小平市リサイクルきゅらばん
5月20日(月)13:30~15:30
@小川西がラウンド
- 東大和市環境市民の集い
6月1日(土) 10:00~14:00
@東大和市長中央公民館
- 東久留米市環境フェスティバル
6月8~9日(土日) @東久留米市役所
10:00~16:00(※日曜日は15:00まで)



武田理事長（中央）と歴代青年部長（右から第4代～第10代）

東資協青年部初の女性部長誕生
 〓当組合青年部の吉浦亜矢子氏
 が第十代青年部長に選任〓

去る三月二三日に開催された東資協青年部臨時総会において、当組合青年部副部長の吉浦亜矢子氏が第十代青年部長に選任されました。四月二六日に開催された第三十回東資協青年部通常総会で令和六年度の事業計画も承認され、心機一転新年度の青年部活動がスタート致しました。なお、当組合からは、紺野琢生氏（第四代）、福田雄二氏（第七代）に続く三人目の青年部長で、東資協青年部初の女性青年部長となります。支部を挙げて吉浦新部長率いる東資協青年部の活動を応援していきたいと思えます。

また、五月十八日に開催された第七十回東資協通常総会にて、前年度に引き続き副理事長に福田氏、総務委員長に紺野氏が再任されました。また、青年部長として新たに理事に選任された吉浦亜矢子氏に代わり、吉浦高志理事長は東資協理事を退任しました。

行事・行動

【二月】

- 三日：東資協新年賀詞交歓会
- 七日：東京都清掃担当 者勉強会
- 九日：東資協理事会
- 十三日：小平市リサイクルきゅらばん
- 十四日：小平RC 責任者会議
- 十六日：東村山市廃棄物減量審
- 十九日：小平市廃棄物減量審

【三月】

- 二日：TAMARフォーラム
- 六日：東大和市廃棄物減量審
- 八日：東資協理事会
- 十一日：小平RC 責任者会議
- 十二日：人材確保オーダーメイド支援事業
- 十三日：小平RC 関連JV会議
- 十五日：回収車両運転者安全講習会
- 十六日：日資連理事会
- 十九日：東リ協リサイクルフォーラム・陽春の集い
- 二十一日：共同受注検査（東久留米市）
- 二十二日：共同受注検査（東久留米市）
- ・小平市リサイクルきゅらばん

【四月】

- 二日：財務委員会
- 十日：小平RC 責任者会議
- 十二日：東大和市環境市民の集い総会
- ・西東京市名刺交換会
- ・東資協理事会
- 十三日：日資連臨時理事会
- 十五日：人材確保オーダーメイド支援事業
- ・財務委員会・定例理事会
- 二十二日：東多摩再資協青年部総会
- ・業務・集団回収委員会
- 二三日：共同受注検査（西東京市）
- 二四日：東村山市収集業者連絡会議
- 二六日：東リ協理事会
- ・東資協青年部総会
- 二七日：組合関連施設見学会
- 七日：小平RC 責任者会議
- 八日：小平RC 関連JV会議
- 九日：人材確保オーダーメイド支援事業
- 十日：東資協理事会
- 十二日：小平環境グリーンフェスティバル
- 十四日：定例理事会
- 十五日：回収責任者意見交換会

【五月】

- 二六日：共同受注検査（西東京市）
- ・東リ協理事会
- 二六日：東村山市市制施行六〇周年式典
- 二七日：業務・集団回収委員会
- 二八日：共同受注検査（西東京市）
- 二九日：初任運転者特別教育
- 十八日：東村山市集団回収団体連絡会
- ・日資連理事会
- ・第七十回東資協通常総会
- 二〇日：小平市リサイクルきゅらばん
- 二一日：東リ協会通常総会
- 二二日：東大和市環境市民の集い全体会
- 二四日：第三十回通常総会
- 二六日：東村山市市制施行六〇周年式典
- 二七日：業務・集団回収委員会
- 二八日：共同受注検査（西東京市）
- 二九日：初任運転者特別教育

編集後記

直言拝聴をご寄稿頂いた栗岡様、ありがとうございます。プラスチックの処理、再利用の問題をしっかりと発信し、古紙リサイクルを市民に分かりやすくするため、今後とも連携・協力をお願いします。コロナが明けて、インバウンドも回復し、株価は過去最高値を記録したものの、実態経済は停滞したまま、物価高騰に賃上げも追いつかず生活も苦しくなる一方です。どこかの政治家のキックバックを考えると、一人四万円の定額減税で国民は納得するでしょうか？

納税は、国民の義務ですからしっかりと納めますが、国民の生命・財産を守る正しい政治の元で、経済の好循環を生み出し、努力する人に還元されるような社会にして欲しいものです。（TKO）